

第3章 全体構想

第1節 基本理念とめざすまちの姿、都市計画の課題と目標

1-1 基本理念・めざすまちの姿

本計画は、「第2次北名古屋市総合計画」を上位計画として策定するものであり、「第2次北名古屋市総合計画」において掲げる基本理念やめざすまちの姿を踏まえて都市計画の方向性を明らかにするものです。

そのため、基本理念及びめざすまちの姿は、「第2次北名古屋市総合計画」より、以下のように設定します。

基 本 理 念

「こころ」と「からだ」と「まち」が健康で、活力あるまち

「こころ」と「からだ」と「まち」の健康づくりを推進し、全ての市民がいきいきと活躍する活力あるまちをめざします。

便利で安全・安心な質の高いまち

安全・安心な生活環境の整備を進め、誰もが快適に暮らせる質の高いまちをめざします。

やすらぎと愛着を感じ、いつまでも住み続けたいまち

やすらぎある暮らしと市民同士のふれあいを醸成し、子どもから高齢者までがいつまでも住み続けたいまちをめざします。

めざすまちの姿

「健康快適都市」～誰もがいきいきと安全・安心に暮らせるまち～

市民の誰もが、快適な生活環境の中で心も体も健康でいきいきと安心して暮らし続けることができるまちをめざすまちの姿とし、その実現に向けて、市民と行政が協働してまちづくりを進めていきます。

1-2 名古屋都市計画区域における都市づくり

本計画は、「名古屋都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」に即して策定するものであり、「名古屋都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」において掲げる基本理念やめざす都市の姿（将来都市像）を踏まえた上で、本市における都市計画の方向性を明らかにする必要があります。

基本理念

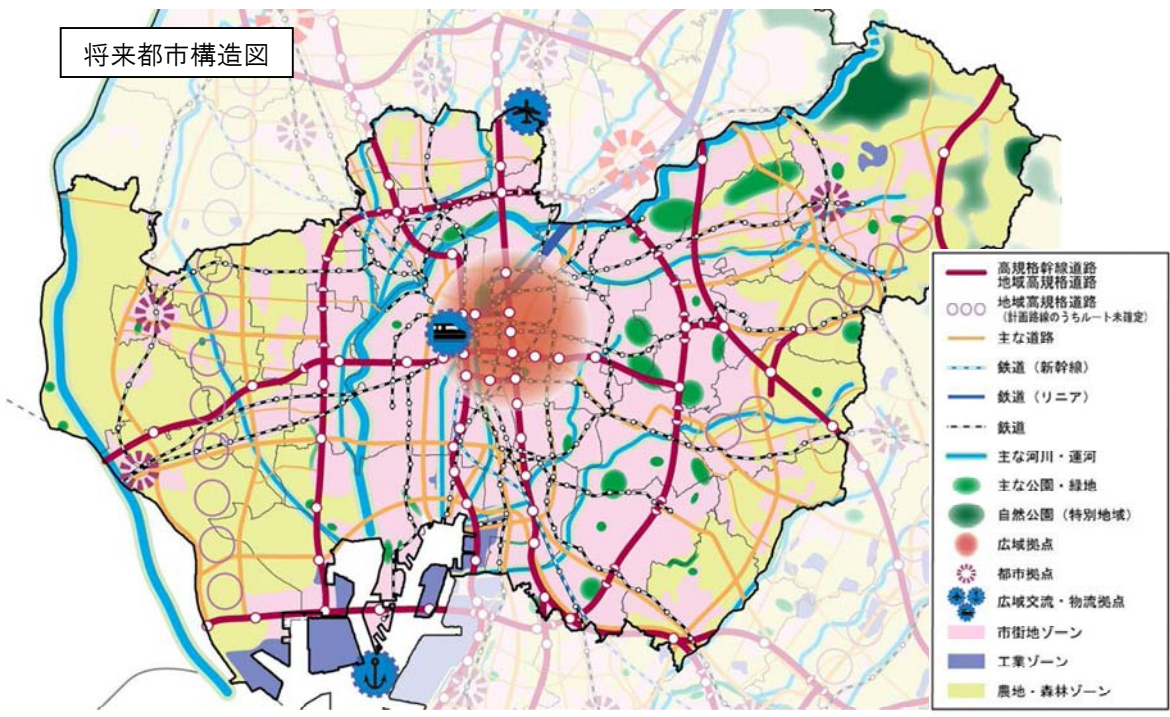
**リニア開業によるインパクトを活かし、
多様な産業と高次の都市機能が集積した世界へ飛躍する都市づくり**

- 「元氣」 : リニア中央新幹線開業に伴うヒト、モノなどの動きの広域化、県営名古屋空港・名古屋港といった交流拠点とその周辺における航空宇宙産業をはじめとする産業の集積など、充実した国際的・広域的基盤を活かした都市づくりを進めます。
- 「暮らしやすさ」 : 商業・業務施設などの高次都市機能が集積し、都市住民がこれらのサービスを楽しむことができる便利で豊かな都市づくりを進めます。

目指す都市の姿（将来都市像）

- ① 暮らしやすさを支える集約型都市構造への転換に係る将来都市像
- ② リニア新時代に向けた地域特性を最大限活かした対流の促進に係る将来都市像
- ③ 力強い愛知を支えるさらなる産業集積の推進に係る将来都市像
- ④ 大規模自然災害等に備えた安全安心な暮らしの確保に係る将来都市像
- ⑤ 自然環境や地球温暖化に配慮した環境負荷の小さな都市づくりの推進に係る将来都市像

将来都市構造図



1-3 都市計画の課題と目標

基本理念に基づき、めざすまちの姿を実現するため、都市計画の課題と目標を設定します。

「こころ」と「からだ」と「まち」が健康で、活力あるまち

現 状	我が国は世界有数の長寿大国であり、世界に類を見ない速さで高齢化が進行しています。本市においても、1990年に4,938人であった高齢者人口は2015年に19,908人と25年間で約4倍に増加しており、高齢化率は23.7%となっています。また、本市の都市施設の状況をみると、概ね都市基盤が整備されており、今後はそのメンテナンスによる長寿命化が必要となってきます。 〔人口〕〔都市施設〕
-----	--

課 題	今後は、人口減少に転じるなかで高齢者人口の増加が見込まれており、高齢化率も大幅に上昇するものと予測されます。これに伴い、医療や福祉のニーズも一層高まると考えられることから、医療や福祉サービスを楽しむやすく、買い物等の日常生活においても、高齢者が移動しやすい環境を整備することが求められます。また、都市施設については、新規整備から既存施設の長寿命化へとシフトしていくことが必要です。
-----	--

目 標 ①	まちの健康状態を良好に保ち、持続可能な都市づくりを推進するとともに、「歩く」ことに注目した都市づくりによって、誰もがいつまでも心身ともに健康で、高齢になっても快適に暮らすことができるよう、ユニバーサルデザインに配慮した「健康・福祉を支える都市づくり」を進めます。 ⇒「健康・福祉を支える都市づくり」
----------	--

現 状	本市の産業別総生産額の割合をみると、最も高いのは製造業の25.3%であり、次いで、サービス業、金融・保険業、卸・小売業、不動産業がそれぞれ10%台となっています。主要な産業である工業及び商業についてみると、製造品出荷額等及び商品販売額は、増減があるものの傾向としては減少しています。 〔事業所数・生産額等〕〔商業〕〔工業〕
-----	--

課 題	活力ある都市にするため、地域経済を潤し、確固たる財政基盤を築くことが求められますが、そのためには、産業の振興が重要な事項となります。近年は、生産拠点の海外移転等の動きがみられる一方、国内では広域交通体系の整備を活かした企業誘致の取り組みや事業育成への支援等、都市間競争が激化しており、本市においてもその対応が必要です。
-----	---

目 標 ②	名古屋市都心部に近接する本市においては、鉄道や高速道路、さらにはリニアインパクトなど、広域的な交通利便性を活かした産業集積を推進し、「産業活動が盛んな都市づくり」を進めます。 ⇒「産業活動が盛んな都市づくり」
----------	---

便利で安全・安心な質の高いまち

現 状	利便性の高い市民生活を実現するためには、都市基盤や公共施設、公共交通等の社会資本を計画的に整備、維持管理していくことが必要となります。しかし、高齢化の進行に伴う扶助費等の義務的経費の増加、合併による特別措置の段階的縮減、これまでに整備してきた社会資本の老朽化に伴う更新費用への対応、空家等への対応等から、都市基盤・公共施設に充てられる財源は厳しい状況が見込まれます。 一方、名鉄犬山線は主要地方道春日井稲沢線との交差区間が高架化しているのみであり、以北の市街地では鉄道による分断が解消されていません。 〔都市施設〕〔公共交通〕
-----	---

課 題	成熟期を迎えた我が国では、「選択と集中」をキーワードとした真に必要なものへの投資、これまでに整備した社会資本を「賢く使う」取り組み、地域ニーズ等を踏まえ規模の適正化を図る「集約・再編」が重要視されています。本市においても、こうした社会資本整備の考え方の変化に対応することが必要です。 また、便利で安全・安心な市街地の形成に向けて、鉄道によるまちの分断を解消するためには、優先度の高い場所から段階的に鉄道の高架化に取り組むことが必要です。
-----	--

目 標 ③	幹線道路など既存の都市基盤を活かし、新たな投資は鉄道の高架化など必要最小限にとどめつつ、社会資本のストック効果を最大限発揮するための「これまでに整備した社会資本を活用する都市づくり」を進めます。 ⇒「これまでに整備した社会資本を活用する都市づくり」
----------	---

現 状	本市では、地形的特性上これまでに多くの水害に見舞われており、2000年の東海豪雨の際には災害救助法が適用される等、大きな被害が生じました。さらに、近年全国的に多発するゲリラ豪雨や大型台風は従来の想定を超える甚大な被害をもたらしています。また、地震災害についても、東日本大震災を契機として、南海トラフ地震による被害想定や防災対策が見直されるなか、本市においても最大震度6強が予測されています。こうした背景からも、市民の安全・安心への関心が非常に高くなっています。 〔災害特性〕〔市民意見〕
-----	--

課 題	こうした本市の地形的特性から、洪水や地震など従来の想定を超える大型自然災害の発生に備え、市民の安全・安心な暮らしを確保するために、災害に対する被害を事前に防ぐ又は最小限に抑えるための都市づくりが必要です。
-----	---

目 標 ④	そのため、災害リスクに対する理解を広く共有するとともに、行政と地域が一体となってハード・ソフトの両面から取り組みを推進する「防災・減災の都市づくり」を進めます。 ⇒「防災・減災の都市づくり」
----------	--

やすらぎと愛着を感じ、いつまでも住み続けたいまち

現 状	本市の人口動態は、現在も自然増及び社会増の傾向が続いていますが、出生率の低下に伴い、将来的には自然減への転換が見込まれます。また、現在は名古屋市隣接の都市における宅地需要を取り込む状況が続いていますが、全国的に更なる人口減少が進行するなかで、人口確保に対する都市間競争が活発化すると、本市においても社会減に転じることが懸念されます。 〔人口〕〔世帯数〕〔人口密度〕〔区域区分別人口〕〔人口集中地区〕〔人口動態〕
-----	---

課 題	多くの市町村では、人口減少や東京への一極集中といった地方が抱える課題への対応が迫られ、さらに2014年に日本創成会議・人口減少問題検討分科会が公表した「消滅可能性都市」が呼び水となり、全国的に人口減少を克服するための取り組みが急速に広がっています。こうしたなか、今後はリニアインパクトによるさらなる発展の可能性を見据えて、本市においても名古屋市隣接の都市における宅地需要への対応が必要となります。
-----	---

目 標 ⑤	そのため、名古屋市隣接の都市で居住先を探す人が本市に住みたいと思える、また、市民がいつまでも住み続けたいと思えるような高質な住居空間を目指し、「居住先として選ばれる高質な都市づくり」を進めます。 ⇒「居住先として選ばれる高質な都市づくり」
----------	--

現 状	本市は、名古屋市に隣接しながら一定の農地を有しています。市内の農地は、比較的小規模なものが多く、従来は名古屋市への近接性等を背景に宅地需要の受け皿にもなっていました。しかし、近年は従来からの食料生産機能のみならず、市民生活にやすらぎや潤いをもたらす緑としての機能、遊水池としての防災機能等、その機能の多様性から認識が改められはじめています。 〔土地利用〕〔農業〕
-----	---

課 題	特に、特定都市河川である新川流域に位置し、市域も低平地である等、水害リスクの高い地形である本市において、農地の有する遊水機能は防災上も不可欠な機能といえます。また、本市の農地は名古屋市隣接の都市における貴重な資源でもあり、都市生活に癒しをもたらす空間ともなっています。こうした多様な観点から、これからは、本市に残された貴重な農地を活かした都市づくりを進めていくことが求められます。
-----	---

目 標 ⑥	農地の保全・活用に取り組み、都市農業の振興を図ることで、名古屋市に隣接しながらも「やすらぎやゆとりのある都市づくり」を進めます。 ⇒「やすらぎやゆとりのある都市づくり」
----------	---

【名古屋都市計画区域における基本理念】

リニア開業によるインパクトを活かし、
多様な産業と高次の都市機能が集積した世界へ飛躍する
都市づくり

【基本理念】 【めざすまちの姿】

【都市計画の目標】

「こころ」と「からだ」と「まち」
が健康で、活力あるまち

「健康快適都市」

「誰もがいきいきと安全・安心に暮らせるまち」

便利で安全・安心な
質の高いまち

やすらぎと愛着を感じ、
いつまでも住み続けたいまち

現状 高齢者数は25年間で約4倍、概ね都市基盤は整備済み

課題 加速化する高齢社会への対応、既存施設の長寿命化

目標① ⇒健康・福祉を支える都市づくり

現状 本市の基幹産業は製造業、国では広域交通体系の整備推進

課題 激しさを増す都市間競争、広域的な交通利便性を活かす

目標② ⇒産業活動が盛んな都市づくり

現状 社会資本の老朽化、厳しい財政状況、鉄道によるまちの分断

課題 既存の社会資本の活用、段階的な鉄道の高架化

目標③ ⇒これまでに整備した社会資本を
活用する都市づくり

現状 頻発する浸水被害、市民の安全・安心への高い関心

課題 大型自然災害への対応、市民の安全・安心な暮らしの確保

目標④ ⇒防災・減災の都市づくり

現状 名古屋市に隣接するベッドタウンとして発展

課題 名古屋市隣接の都市におけるリニアインパクトへの対応

目標⑤ ⇒居住先として選ばれる高質な都市づくり

現状 名古屋市に隣接しながら比較的多くの農地を有する

課題 防災、緑地等の多様な機能を持つ農地の存在を活かす

目標⑥ ⇒やすらぎやゆとりのある都市づくり

第2節 将来指標

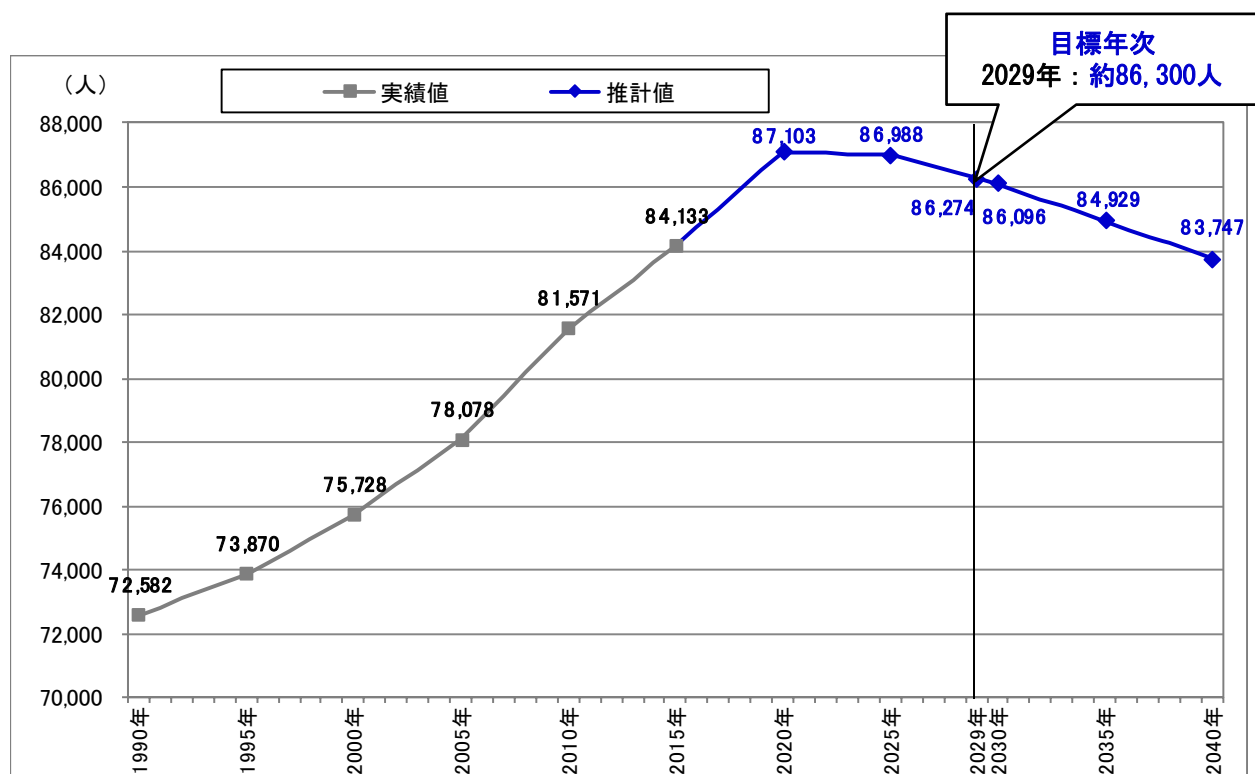
本市の人口は、2015年時点で84,133人となっていますが、「第2次北名古屋市総合計画」の推計によると、このままの趨勢が続いた場合、2020年の87,103人をピークとして、その後緩やかに減少し、本計画の目標年次である2029年には86,274人となる見込みです。

そのため、本計画においては、「第2次北名古屋市総合計画」の推計結果をもとに、2029年の目標年次における将来人口を約86,300人として設定します。ただし、この将来人口は2015年の人口よりは多いが、2040年には約83,700人となるなど、目標年次後は人口減少が見込まれることから、住居系の市街地を積極的に拡大していく必要性は低いものと考えられます。

一方で、2015年時点において、現実的に人が住む地域の人口密度として算出した「工業系の土地利用を図る地区を除く市街化区域」の人口密度は、67.3人/haと比較的高い状況にあります。目標年次までには一定の人口増加が見込まれるなかで、現状以上に人口密度が高くないよう、今後は既存の市街地では生産緑地等を保全していくことでゆとりを確保していくとともに、駅周辺など利便性の高い地域で必要最小限の規模の拡大についても検討していきます。

※「工業系の土地利用を図る地区を除く市街化区域」とは、2015年時点の市街化区域のうち、工業地域及び沖村地区計画に定める工業地区を除いた区域です。

■ 将来人口の推計



資料：国勢調査（1990年～2015年）、第2次北名古屋市総合計画（2020年～2040年）

※推計値は国立社会保障・人口問題研究所の2013年3月推計データ及び2015年の国勢調査データをもとに、本市がコーホート要因法により推計したものです。そのため、国立社会保障・人口問題研究所の2018年3月推計データとは異なります。

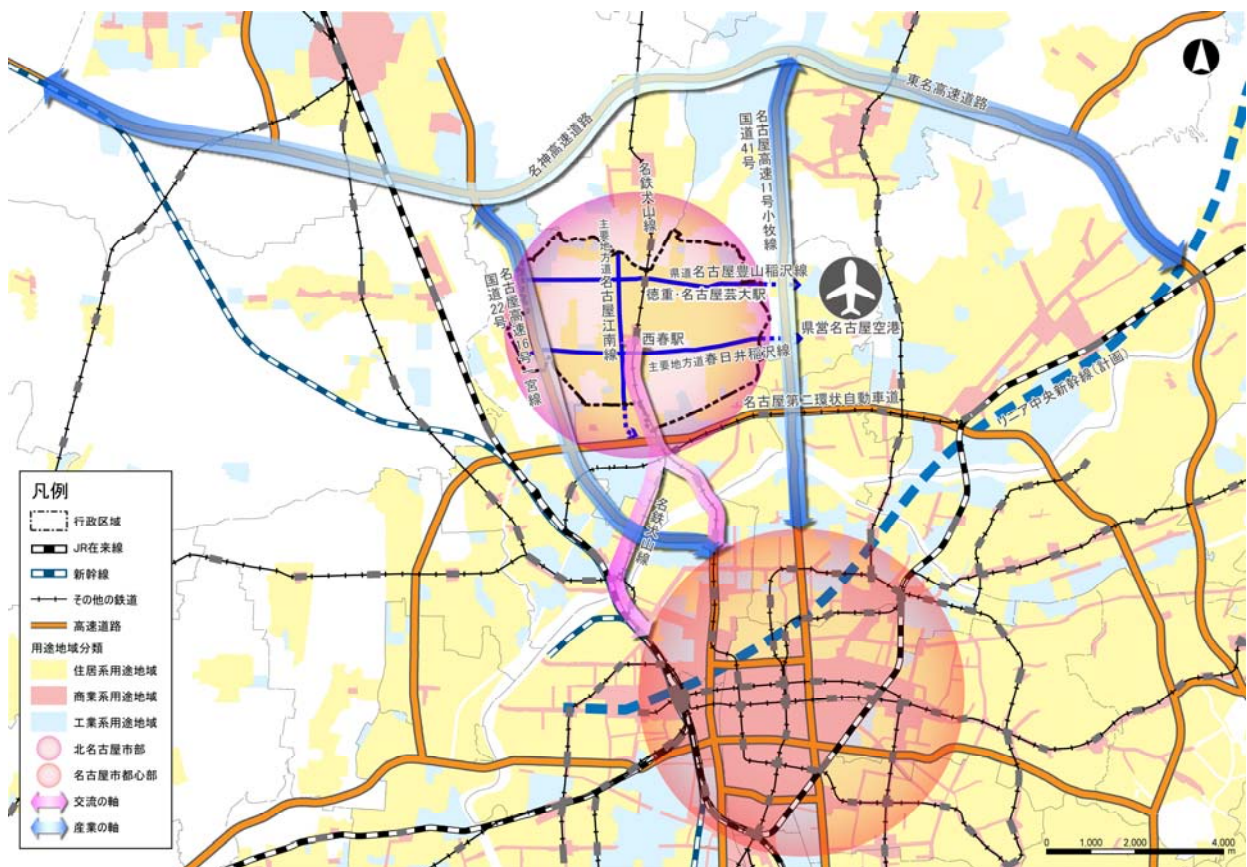
第3節 めざすべき都市づくりの考え方

3-1 広域的な都市構造の考え方

本市は市内居住の通勤・通学者のうちのおよそ3分の1が名古屋市に通勤・通学するなど、これまで名古屋市隣接の住宅地として発展してきました。2027年にはリニア中央新幹線の東京-名古屋間が開業し、ヒトやモノの動きがさらに広域化することで、より一層の都市間競争の活発化が予想されます。こうしたなかで、名鉄犬山線や国道22号、主要地方道名古屋江南線による名古屋市への交通体系や市街地近郊に存在する比較的多くの農地など、地域特性を活かしながら新たな居住を誘導していくことが今後の本市の発展につながると考えられます。

広域的な交通体系として、本市の東西には、東名・名神高速道路につながるよう、名古屋高速や国道22号・国道41号が南北方向に縦断しており、本市の東側には県営名古屋空港が位置しています。また、これらを繋ぐように、市内では主要地方道春日井稲沢線や県道名古屋豊山稲沢線が東西方向に通じています。こうした本市の強みである広域交通利便性の高さを活かし、産業集積を進めるための企業誘致を推進することで本市の持続的な発展を目指していく必要があります。

■ 北名古屋市からみた広域的な都市構造



資料：国土数値情報（2011年）をもとに作成

3-2 本市の将来的な都市づくりの考え方

都市づくりにおいては、人口減少時代・超高齢社会の到来、環境負荷の高まり、都市財政の圧迫等を背景に拡散型から集約型の都市構造への転換が求められており、国や愛知県は集約型都市構造を構築するための取り組みを推進しています。

本市の都市構造をみると、市中央を南北に名鉄犬山線が縦貫し、駅を中心として格子状に道路網が形成されています。また、コンパクトな市街地が駅を中心としたエリア、又は幹線道路の沿道に形成されていることから、全市的に鉄道や道路等の交通利便性が高い特長があります。また、市街地に囲まれるかたちで残る農地は、名古屋市隣接の都市における貴重な緑の空間であり、水害リスクの高い本市において重要な遊水機能を果たしています。

駅周辺では、公共交通の利便性を強化するとともに鉄道の連続立体交差事業によって、中心部の一体的な都市づくりを推進し、歩いて暮らす人々が公共交通を利用して生活しやすい都市空間を整えます。また、利便性の高い駅周辺には、様々な人々が利用する都市機能を集積させ、人々の交流を生み出すことでまちのにぎわいを創出し、本市の中心としてふさわしい、快適で魅力的な空間づくりに努めます。

駅を中心として周りに広がる住宅地では、リニアインパクトによる宅地需要に適切に対応するとともに、防災機能や緑地機能、交流機能など多様な機能を併せ持つ農地との共存を図ることで、近隣市町にはない農地と融合したやすらぎやゆとりのある魅力的な住環境を創出します。

産業集積は、人口年齢構成のバランスを整えるための新たな雇用を生み出すとともに、税収の確保にもつながります。そのため、新たな産業のための受け皿を、既存の幹線道路周辺など、広域交通利便性の高い地域に確保していきます。

こうした特性を踏まえ、本市ではめざすまちの姿である「健康快適都市」～誰もがいきいきと安全・安心に暮らせるまち～を実現するため、「集約された都市のなかで、活力ある産業を育むとともに、都市と農地の共存によるゆとりや潤いのある高質な都市づくり」を目指します。

また、本市の特性をさらに高めるため、名古屋市とのアクセス性の向上に向けて鴨田川右岸道路等の名古屋市へつながる道路整備についても検討し、名古屋市とのつながりを強化した都市構造を目指します。

都市づくりの考え方

集約された都市のなかで、活力ある産業を育むとともに、
都市と農地の共存によるゆとりや潤いのある高質な都市づくり

都市を形成する骨格的な要素として、「点」「線」「面」における都市づくりの考え方を示します。

「点」

● 都市拠点

都市拠点は、市民生活を支えるサービス機能が集積し、多くの人が集う場所であり、本市では、「西春駅」を中心とするエリアを位置づけ、都市機能の維持・誘導を図ります。また、西春駅周辺では、駅前広場やアクセス道路など、一定の都市基盤整備が進んでいることから、将来的な鉄道の高架化にあわせ、再整備・再開発を検討します。

西春駅は急行停車駅であることから、パークアンドライドやキスアンドライドといった自動車によるアクセス機能の強化・拡充を図ります。

● 副都市拠点

都市拠点を補完する第二の拠点として「徳重・名古屋芸大駅」を中心とするエリアを位置づけ、都市機能の維持・誘導を図ります。特に、駅前では土地地区画整理事業などの都市基盤整備を行い、駅前広場や拠点施設を整備します。鉄道は高架化し、東西の交通利便性を高めるとともに、一体的な市街地を形成します。

徳重・名古屋芸大駅は高校・大学への通学の利便性が高いことから、徒歩・自転車によるアクセス機能の強化・拡充を図ります。

● 防災拠点

「健康ドーム」を中心とするエリアは、市民の交流拠点としての機能を向上させるとともに、健康ドーム周辺を災害救護の拠点、近接する医療機関周辺を災害医療の拠点とし、2つの拠点を結ぶアクセスルートの多重化など、都市の防災機能の強化・拡充を図ります。

周辺の農地も含めて浸水被害が想定される地域でもあるため、都市的な土地利用を図ることは適当ではないことから、農地を活用した保水機能の強化及び調整池も兼ねた親水空間の整備を図ります。また、名古屋市や駅に近接した場所であり、幹線道路の利便性を活かして、農業に関連した様々な交流や活力を生み出す場所として活用します。

● 健康づくり拠点

健康ドームや文化の森周辺、総合体育館は、市民が体を動かすことを通じて、様々な交流を生み、さらなる健康づくりを促進するような拠点として、その機能の充実を図ります。

一 鉄道軸

「線」

「名鉄犬山線」は、本市と名古屋市都心部を結ぶ主要な公共交通であり、「都心拠点」「副都心拠点」の機能強化及び両拠点におけるコミュニティバス「きたバス」との結節機能を強化し、利用促進を図ります。一方、鉄道は都市の東西交通軸の分断要素ともなっており、段階的な高架化を図ります。

一 広域幹線軸

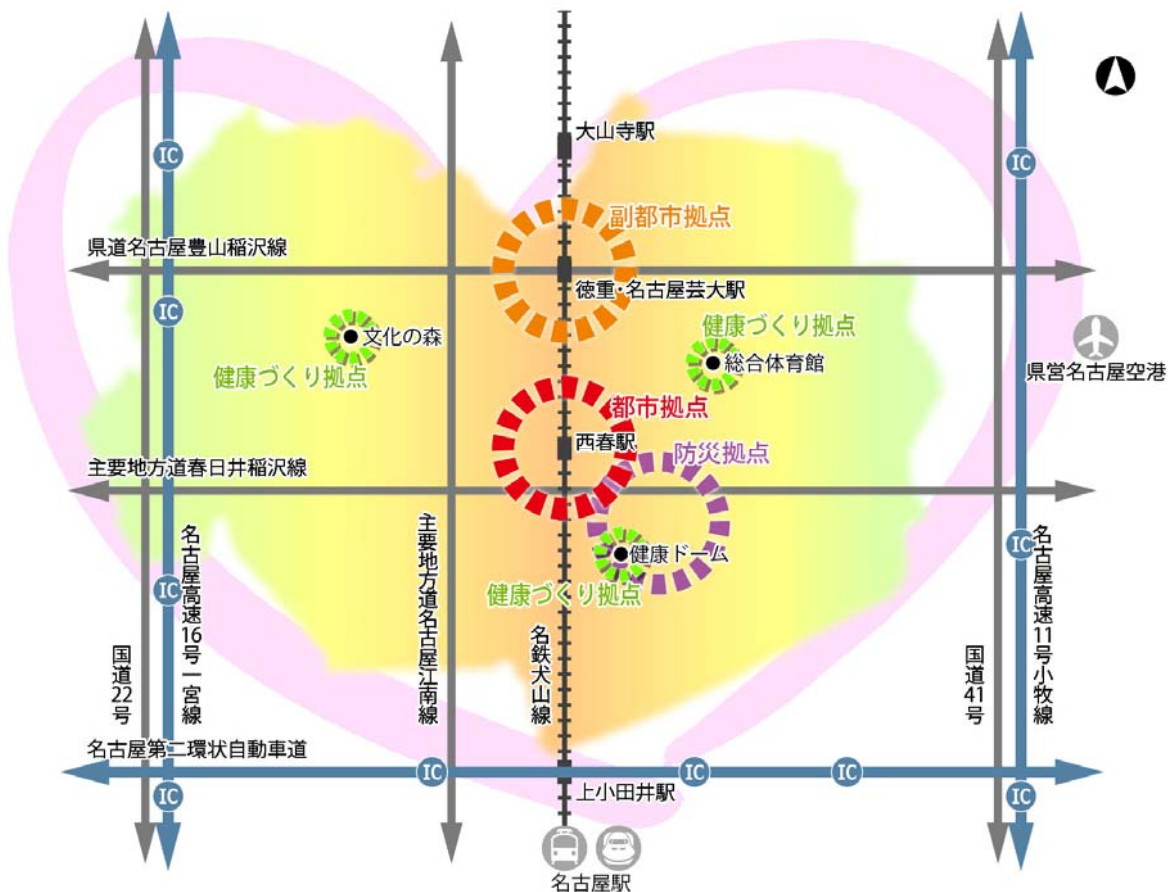
「高速道路」「国道22号」「国道41号」「主要地方道名古屋江南線」「主要地方道春日井稲沢線」「県道名古屋豊山稲沢線」は、本市と周辺都市を結び、ヒトやモノが交流し産業の主軸となる道路として、未整備区間の整備を促進します。

■ 都市と農地の共存

「面」

駅周辺の生活利便性の高い地域では、土地の高度利用を推進し、駅から少し離れた地域では、本市の特長でもある名古屋市近郊に残された貴重な農地との共存を図ることで、ゆとりや潤いのある都市づくりを推進します。また、農地の防災機能、緑地機能、交流機能といった多様な機能を十分に活用できるよう、土地利用の方針を定めます。

■ 都市づくりの考え方



第4節 分野別の都市づくり方針

都市計画の目標の達成に向けて、将来的な都市づくりの考え方を踏まえた上で、分野別の都市づくり方針を設定します。

都市計画の目標

健康・福祉を支える都市づくり

産業活動が盛んな都市づくり

これまでに整備した社会資本を活用する都市づくり

防災・減災の都市づくり

居住先として選ばれる高質な都市づくり

やすらぎやゆとりのある都市づくり

都市づくりの考え方

集約された都市のなかで、活力ある産業を育むとともに、都市と農地の共存によるゆとりや潤いのある高質な都市づくり

分野別の都市づくり方針

土地利用の方針

市全域の土地をどのような用途で利用していくのか、その配置方針を示します。

都市施設の方針

道路、公園、河川といった都市の基盤を形成する施設の整備方針を示します。

市街地整備の方針

市街地として整備していくエリアを示し、市街地形成の方針を示します。

自然環境保全・都市環境形成の方針

農地等の自然環境の保全・活用及び地球環境や景観に配慮した都市環境形成の方針を示します。

都市防災の方針

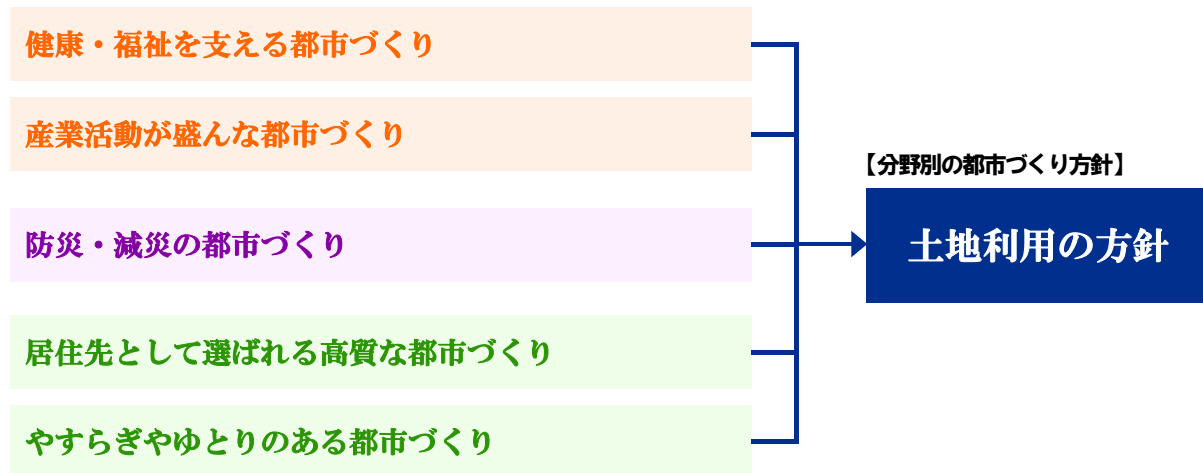
水害等の大規模自然災害に対応するための防災・減災の方針を示します。

4-1 土地利用の方針

◆都市計画の目標との関わり

「土地利用の方針」と都市計画の目標との関わりは以下のとおりです。

【都市計画の目標】



◆基本方針

本市は、名古屋市との広域交通ネットワークで連絡されており、さらにリニア中央新幹線の整備が進行していることから、依然として宅地需要が高く、また、新規企業の進出の可能性も有しています。一方で、全国的に進行する人口減少・高齢化の波は本市にも押し寄せており、市街地の空洞化や財政の悪化も懸念されます。

そのため、人口減少・高齢化に備え駅周辺に都市機能を集約化し、駅を中心とした利便性の高い土地利用を図ります。【健康・福祉を支える都市づくり】

また、居住者のニーズ・ライフスタイルに応じ、駅からの距離に応じた段階的な土地利用と、農地との共存により、特色とゆとりある質の高い土地利用を図ります。【居住先として選ばれる高質な都市づくり】

住宅地に点在する農地は、都市生活に憩いをもたらす良好な住環境を形成するだけでなく、大規模地震発生時には一時的な避難場所ともなる貴重な空間であるため、都市に必要なオープンスペースとして捉え、住宅地と共存する土地利用を図ります。【防災・減災の都市づくり】 【やすらぎやゆとりのある都市づくり】

幹線道路周辺では、周辺土地利用との連続性・整合性を考慮しながら、産業集積のできる土地利用を図ります。【産業活動が盛んな都市づくり】

◆整備・誘導・保全方針

鉄道沿線

まちづくりゾーン



- ・東西の分断要素となっている鉄道の段階的な高架化に合わせて、交通結節機能などの都市基盤の整備や都市機能の集積により、利便性の高い市街地を維持します。

都市と農地の

共存推進ゾーン



- ・都市拠点である西春駅に近接し、健康ドームや医療機関などの施設も立地し、それらを中心とした防災拠点の位置づけがあるなか、周辺には農地も広がっています。こうしたなかで、好立地条件と農地を活かした高質な住宅地の創出や防災機能の強化、農業を活かした交流や体験により、都市と農地がバランスよく融合した土地利用の実現を目指します。

産業誘導ゾーン



- ・北名古屋沖村西部地区に続く新たな産業用地として、周辺の土地利用との整合やこれまでに整備した社会資本の活用等の観点から、既存の工業地及び既存都市計画道路に隣接するかたちで、鴨田川右岸道路等の都市基盤整備に合わせて、産業集積を図る土地利用を推進します。

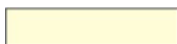
駅そば利便住宅地



- ・行政サービス施設や子育て・教育関連施設、福祉施設や医療施設、スーパーマーケット等の商業施設等を、総合的な視点から駅を中心に適正に配置し、誰もが歩いて暮らしやすく利便性の高い、程よく高密度な住宅地としての土地利用を図ります。

まちなか快適

住宅地



- ・既存住宅地を中心に生産緑地等の都市農地を活かし、ゆとりのある居住機能の立地を基本としながら、身近な商業・医療・福祉等の日常生活を支える施設については維持充実させ、快適性と利便性を兼ね備えた比較的低密度な住宅地としての土地利用を図ります。

沿道系市街地



- ・ 主な幹線道路沿道においては、生活環境への影響を考慮しつつ、市民のニーズにあった中小規模の商業施設等が立地する土地利用を図ります。
- ・ 施設の立地にあたっては、地域活力の向上や市民の生活利便性の向上に資するものとし、排水施設など都市基盤施設の整備と併せた上で、適切な誘導を図ります。

商業系市街地



- ・ 西春駅周辺の都市拠点においては、全市民の買物需要等に対応する商業系施設の立地、駅に近接する立地条件を活かした業務系施設や居住機能の立地など、多くの人の交流を生み出し、まちのにぎわいを創出する土地利用を図ります。
- ・ 徳重・名古屋芸大駅周辺の副都市拠点においては、都市基盤整備にあわせ、市民の買物需要への対応や学生による利用と連携した拠点施設の立地などにより、まちのにぎわいを創出する土地利用を図ります。

産業系市街地



- ・ 本市の周囲を通る高速道路・国道の周辺や工業系の用途が指定されている地域周辺では、産業の立地ポテンシャルが高いため、周辺の生活環境に配慮しながら、地元企業の育成による規模拡大や、優良企業の誘致による新規立地を促進する土地利用を図ります。

農住環境共存地



- ・市域北西部に広がる市街化調整区域においては、既に一定の集落の形成や分家住宅等の立地が進んでいるため、今後は農地の保全や耕作放棄地の発生の抑制を図ることにより農業利用の推進を図りつつ、これらに調和した低密度な住宅地による土地利用を図ります。
- ・宅地化にあたっては適切な用排水の整備や住宅地への供給処理施設の整備等を図ります。

保全する農地



- ・市街化調整区域にある農地は、本市の重要な生産基盤であるだけでなく、浸水が想定されるエリアにおいては、市街地を守る遊水池として機能を発揮し、また、市街地近郊の優れた田園風景としての役割など、多様な機能を有することから、農地の保全や耕作放棄地の発生の抑制を図ります。

活用を推進する農地



- ・市街化調整区域にある農地のうち、駅にも名古屋市にも近接しており、かつ幹線道路沿道で人を呼び込むのに適した場所では、農地を活かして、都市農業の振興や市民の交流に資する土地利用を図ります。
- ・農作物の生産の場としての役割にとどまらず、生産物の加工・販売、市民が交流するコミュニティの場、身近な農業体験をする場、環境教育・食育の場など様々な活用を検討します。
- ・既存施設の立地と連携しながら、多くの人が集まる活気あふれる場としての活用を図ります。

■ 土地利用の方針



凡 例	
	鉄道沿線まちづくりゾーン
	都市と農地の共存推進ゾーン
	産業誘導ゾーン
	駅そば便利住宅地
	まちなか快適住宅地
	沿道系市街地
	商業系市街地
	産業系市街地
	農住環境共存地
	保全する農地
	活用を推進する農地
	行政界
	主要幹線道路・都市幹線道路
	地区幹線道路
	計画路線
	構想路線
	鉄道
	河川

4-2 都市施設の方針

◆都市計画の目標との関わり

「都市施設の方針」と都市計画の目標との関わりは以下のとおりです。

【都市計画の目標】



◆基本方針

高齢化の進行や厳しい財政状況が続くなか、成熟社会における社会資本整備の考え方は大きく変化しています。便利で快適な市民生活を実現するためには、これまで整備してきた社会資本の活用と、選択と集中による新たな都市施設の整備を進める必要があります。

そのため、新たな整備としては、誰もが歩きたくするような歩行空間を備えた都市施設の整備を図ります。【健康・福祉を支える都市づくり】

一方、既存の都市施設については、計画的な維持・補修により、これまでに整備した社会資本を「賢く使う」取り組みを推進するとともに、人口動態や地域のニーズを踏まえた集約・再編を進めながら規模の適正化を図ります。【これまでに整備した社会資本を活用する都市づくり】

新川の上流域における開発が促進されると雨水流出量が増大するため、下流部に位置する本市では、これまでも多くの水害に見舞われています。水害対策の要となる河川の改修を進めるとともに、市街地における排水対策を推進します。【防災・減災の都市づくり】

また、本市の最大の強みである、広域的な交通利便性や名古屋市へのアクセスをさらに強化するよう都市施設の整備を図ります。【居住先として選ばれる高質な都市づくり】

◆整備・誘導・保全方針

① 道路・交通

1) 道路の整備及び維持管理の推進

道路整備においては、未整備の都市計画道路及び将来土地利用を図る上で必要となる幹線道路の整備を図ります。一部の都市計画道路については、整備により期待される効果や財政状況を踏まえた実現性の観点から、計画の見直しを検討します。また、既設道路については舗装等の耐用年数を勘案したなかで、その維持管理を進めます。

自動車専用道路



役割	・高速性の確保、大量の交通を処理するため、特に自動車専用として計画される道路。
路線	・都市計画道路名岐道路（名古屋高速16号一宮線）
方針	・この道路は整備済みであり、現在の良い沿道環境の維持に努めます。

主要幹線道路



役割	・広域的な交通を効率的に処理し、本市の生活・交流の骨格としての役割を担う道路。
路線	・都市計画道路国道22号線（国道22号）
方針	・この道路は整備済みですが、交通量が多く、大型車両の通行が多いことから沿道環境の改善に努めます。

都市幹線道路



役割	・隣接する都市間の交通を効率的に処理し、主要幹線道路とともに本市の生活・交流の骨格としての役割を担う道路。
路線	・都市計画道路名古屋江南線（主要地方道名古屋江南線） ・都市計画道路春日井稲沢線（主要地方道春日井稲沢線） ・都市計画道路師勝小田井線（県道名古屋外環状線） ・都市計画道路師勝坂井戸線（県道小口名古屋線） ・都市計画道路豊山西春線（県道名古屋豊山稲沢線） ・都市計画道路豊山西春線（市道A3号線）
方針	・安全性・快適性・利便性に優れた交通機能を強化し、高速道路や名古屋市都心部への交通アクセス性を高めるため、都市計画決定された道路の未整備部分の整備や交差点の改良など優先順位を設定し、県と連携して整備を促進します。

地区幹線道路



役割	・市内の各地域を連絡し、主要幹線道路や都市幹線道路を補完する役割を担う道路。
路線	・都市計画道路岩倉西春線（県道春日小牧線） ・主要地方道名古屋中環状線 ・その他の都市計画道路
方針	・安全性・快適性・利便性に優れた交通機能を強化し、高速道路や名古屋市都心部への交通アクセス性を高めるため、都市計画決定された道路の未整備部分の整備や交差点の改良など優先順位を設定し、県と連携して整備を促進します。 ・都市計画道路鍛冶ヶ一色徳重線は、整備効果・事業実現性の視点から計画の見直しを検討します。

計画路線



役割	・新たに地区幹線道路としての整備を検討していく道路。
路線	・鴨田川右岸道路 ・都市計画道路西春駅東線の東への延伸
方針	・本市の最大の強み・魅力は名古屋市に隣接した利便性の高さであり、それをさらに高めるには名古屋市とのアクセスを強化する必要があることから、鴨田川右岸道路の整備を検討します。 ・必要に応じて地元の意向を把握しながら、周辺の施設整備に合わせた整備を検討していきます。

構想路線



役割	・将来的に地区幹線道路を補完するものとして、配置を検討する道路。
路線	・都市施設の方針（道路・交通）の図に示す市道（参考：P52図表参照）
方針	・周辺の土地利用の変化や地元の意向等を踏まえて、将来的な整備を検討していきます。

2) 駅を中心とした公共交通ネットワークの形成

高齢化時代を迎え、本市では駅を中心として自家用車に頼らずに生活できる都市構造を目指します。そのため、西春駅に加え、徳重・名古屋芸大駅を拠点としたバスネットワークを形成するとともに、市民や企業のニーズに応じた路線の増便、又はメリハリのあるダイヤ設定等を検討します。

鉄道



- ・徳重・名古屋芸大駅では、駅周辺の整備と合わせ、駅前広場や自転車駐車場を確保するなどアクセス性を高めます。
- ・本市の中央を縦断する鉄道は地域の分断要素となっているため、徳重・名古屋芸大駅周辺の整備と合わせて鉄道の高架化を推進し、その後は西春駅までの高架化を段階的に進めていくことで、鉄道による地域の分断を解消します。

バス



- ・西春駅を中心に循環している「きたバス」については、市民や企業のニーズに応じて、日常生活において多くの人が利用する主要な施設との利便性の高いネットワークを形成し、交通弱者のためだけでなく、環境にやさしい交通手段として、自家用車からの利用転換を図ります。
- ・西春駅から発着している県営名古屋空港行きの路線バスについては、関係機関に対して、今後も運行の強化・継続を要望していきます。

3) 自転車の通行空間、歩行者空間の形成

西春駅や徳重・名古屋芸大駅への主要な動線を中心に、自転車や歩行者のための空間の充実を図ります。

自転車駐車場



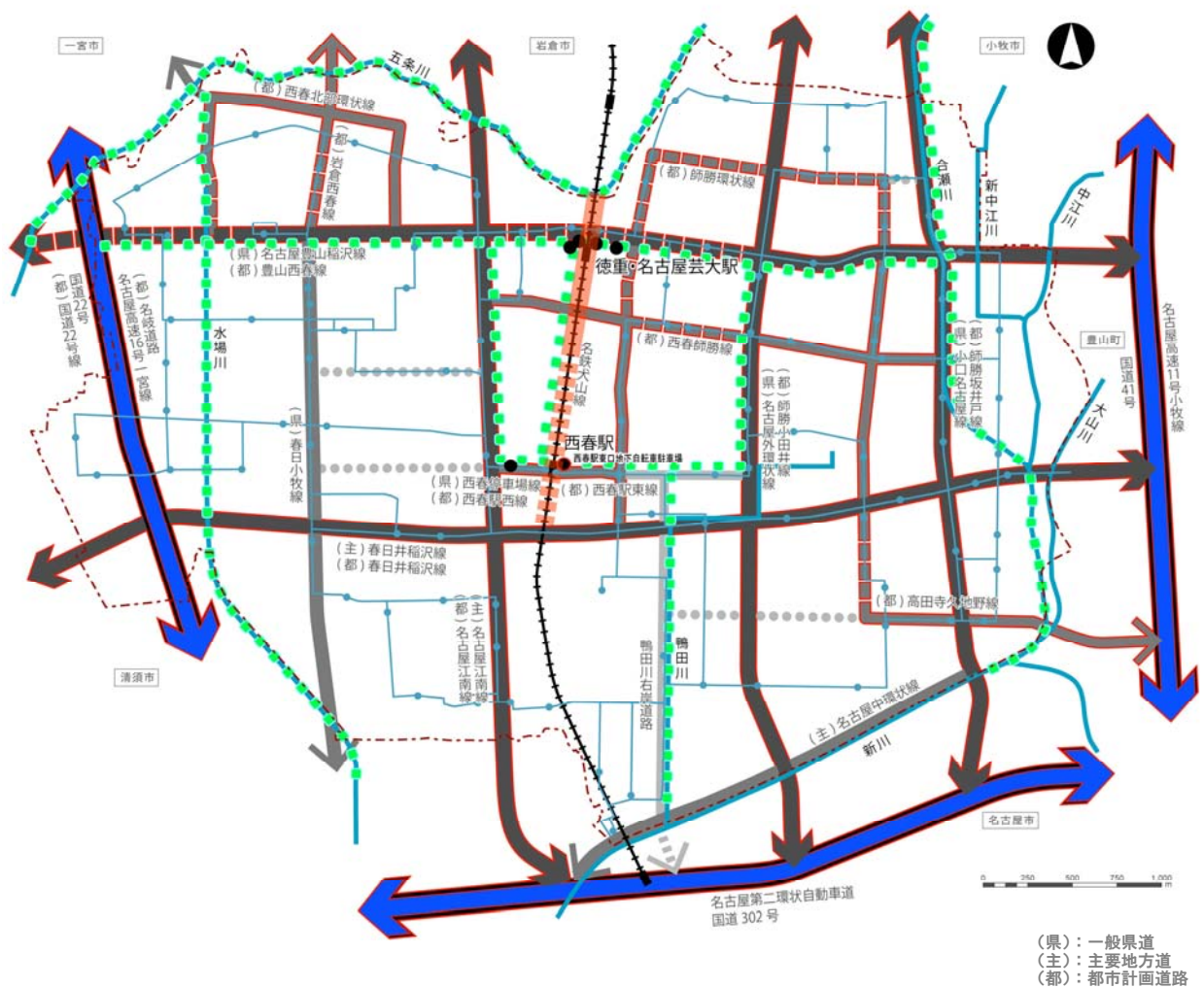
- ・整備済みである西春駅東口地下自転車駐車場と西春駅西口の地上立体式自転車駐車場については、維持管理を行います。
- ・徳重・名古屋芸大駅周辺の自転車駐車場は、駅周辺まちづくりに合わせて検討していきます。

快適歩行空間



- ・駅の周辺では歩行者の回遊性を高めるため、これから整備を進める都市計画道路を中心に、誰もが歩きやすい歩道の整備を検討します。
- ・水辺に親しめる心地よい歩行空間を創出するため、五条川、合瀬川、水場川など遊歩道を整備します。特に合瀬川は小牧山につながる広域的な遊歩道を整備します。
- ・五条川と合瀬川との歩行空間につながりを持たせるため、都市計画道路豊山西春線の歩行者空間を整備します。

■ 都市施設の方針（道路・交通）



凡 例	
	自動車専用道路
	主要幹線道路
	都市幹線道路
	地区幹線道路
	計画路線
	構想路線
	鉄道の高架化の推進
	鉄道の高架化の検討
	鉄道
	バス路線
	快適歩行空間
	河川
	自転車駐車場
	都市計画施設
	行政界

② 公園・緑地

1) 都市公園の整備推進

本市は、都市公園の面積は少ないものの、児童遊園やスポーツ公園が市内の広い範囲で点在しています。しかし、防災機能の向上・地域コミュニティの強化・住環境の向上等の点から、まずは身近な公園の整備が必要です。そのため、地域住民の交流の拠点となるような新たな公園及び緑地について小学校区ごとに整備を検討します。

検討にあたってはプレーパークや農業公園など、多様な形態の公園の可能性を見据えながら進めていきます。

2) 生産緑地を活用した公園・緑地の整備

生産緑地として指定を受けている農地について、その立地特性における開発需要や周囲のオープンスペースの状況などを勘案しながら、民間活力の導入などによる公園・緑地の整備を検討します。

3) 都市農地の活用

市域南部の活用する農地では、生産し収益を上げるための場所から市民の憩いの場、コミュニケーションの場、体験する場、そして産業活動の場など様々な使い方が期待されます。そのなかには、公園・緑地が担うべき役割も含まれており、市民が憩い、自然と親しむ場として都市農地の活用を検討します。

4) その他の公園・緑地

本市には新川や五条川をはじめとする河川が多くあり、一部の河川沿いには桜並木が整備されるなど、憩いと潤いのある空間があります。そのため、これらの河川を活かし、ビオトープなどの機能を持った緑地の整備を図ります。

また、人と自然との共生や生物多様性の保全といった観点から、多様な生物が生息できる生態系や自然環境を守り育てるため、河川、農地等を適切に管理・保全します。

鉄道沿線には、良好な住環境の保全や快適な歩行空間の確保に向けて緑地を整備します。

防災拠点となる健康ドームの隣接地では、災害時における一時避難や救護者のトリアージ、緊急資材の搬出入など様々な機能を持つオープンスペースを確保するため、防災健康ひろばを整備します。

既設の広場や公園、児童遊園などは、市民参加による適切な維持管理を行います。また、北名古屋市アダプトプログラムを活用し、市民参加による緑化・美化の推進を検討します。

■ 都市施設の方針（公園・緑地）



凡 例	
●	都市公園
○	公園・広場の検討
	都市公園から250m圏域
	生産緑地
	活用を推進する農地
	鉄道沿線緑地
●	スポーツ施設
	防災健康ひろば
◆	児童遊園
	行政界
	市街化区域
	主要幹線道路・都市幹線道路
	地区道路
	計画路線
	構想路線
	鉄道
	河川

③ 河川・下水道（雨水）

1) 新川流域における安全対策の推進

本市は全域が新川流域であり、新川流域は特定都市河川浸水被害対策法に基づく特定都市河川流域に指定され、治水対策が進められています。今後も、新川のさらなる治水安全度の向上に向けて県との協議を進めながら、地下放水路の検討及び河川の改修を促進します。

改修の際には生態系への影響を考慮した工法での施工や、河川空間を自然とふれあえる憩いの場として活用できるような整備を促進していきます。

2) 雨水貯留施設の整備、設置の推進

排水機場を含む排水施設の整備を行うとともに適正な維持管理を行います。また、本市では大量の雨が集中して降った場合に、浸水する箇所の発生が想定されていることなどから、新川流域水害対策計画に基づき、雨水貯留・浸透施設の整備・維持管理を行うとともに、民間の開発などに対して雨水貯留・浸透施設の設置を指導します。

また、雨水の貯留機能・浸透機能が大きい農地の保全を図ります。

④ その他の都市施設

上水道



- ・北名古屋水道企業団の策定した「北名古屋新水道ビジョン2016」に基づき、良質な上水を継続して使用できるよう、水源の保全と適切な管理を行います。また、老朽化した施設については、効率よく計画的に補修・更新し、災害に強い基幹管路のネットワーク化や耐震化を進めます。
- ・名古屋市給水区域に指定されている南東部の一部の地域では、名古屋市上下水道局の策定する上水道関連計画に基づき、維持管理を進めます。

下水道（污水）



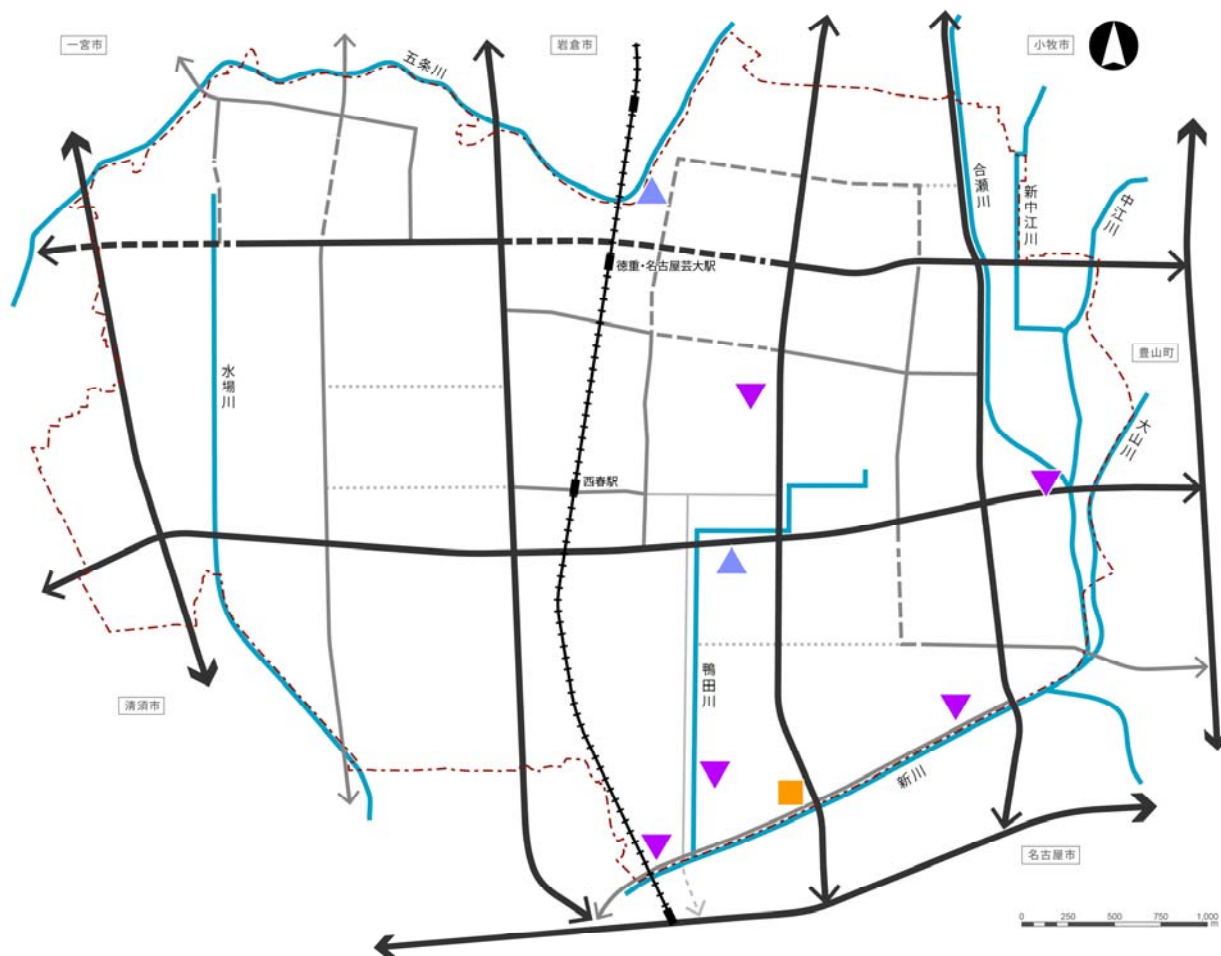
- ・流域下水道の整備にあわせ、計画的な公共下水道の整備を進めます。また、下水道の普及を図るため、市民に対する啓発を行い、下水道の切り替えを支援します。

ごみ処理施設



- ・豊山町との一部事務組合で運営している北名古屋衛生組合及び名古屋市との共同で、(仮称) 名古屋市北名古屋工場（都市計画名称：北名古屋ごみ焼却工場）を整備し、適切に維持管理します。
- ・循環型社会の構築を図るために必要な周辺環境に配慮した再資源化施設や、余熱を利用した温水プールの整備を図ります。

■ 都市施設の方針（河川・下水道、その他の都市施設）



凡 例	
	河川
	上水道施設
	下水道施設
	ごみ処理施設
	行政界
	主要幹線道路・都市幹線道路
	地区幹線道路
	計画路線
	構想路線
	鉄道

4-3 市街地整備の方針

◆都市計画の目標との関わり

「市街地整備の方針」と都市計画の目標との関わりは以下のとおりです。

【都市計画の目標】



◆基本方針

駅を中心として人口密度の高い市街地が形成されている本市において、2020年以降は緩やかな人口減少が見込まれているものの、都市と農地が共存したゆとりある都市づくりを目指していくには、駅周辺の利便性の高い場所で必要最低限の市街地整備を進める必要があります。

徳重・名古屋芸大駅周辺では、土地区画整理事業により、鉄道高架化の推進と都市基盤の整備を一体的に行います。〔これまでに整備した社会資本を活用する都市づくり〕

また、駅周辺であり幹線道路の沿道という利便性の高い地域では、リニアインパクトによる宅地需要を取り込んだ高質な市街地整備を行うことで、駅周辺への居住を誘導します。一方で、都市基盤が未整備な市街地については、良好な都市環境を形成することで、いつまでも住み続けられる市街地へと改善します。〔居住先として選ばれる高質な都市づくり〕

本市は、名古屋市都心部に近接し、かつ、鉄道や幹線道路による広域的なネットワークが充実しており、こうした立地条件を活かして産業系の市街地整備を進めてきました。これまでの都市づくりの経緯を踏まえ、今後も幹線道路の周辺では、隣接する土地利用との連続性や整合性をとりながら、将来的な企業のニーズを見据え、産業系市街地として整備を行います。〔産業活動が盛んな都市づくり〕

市内には都市生活に潤いをもたらす要素となる都市農地が広がっており、これらの農地は、地形特性上、これまでに多くの水害に見舞われてきた本市において、欠かすことのできない防災機能も有しています。こうしたことから、新たな市街地整備にあたっては、名古屋市都心部に近接する利便性と農地が持つ潤いや防災機能等の様々な特長を活かすため、都市と農地の共存を図ります。〔やすらぎやゆとりのある都市づくり〕

◆整備・誘導・保全方針

1) 駅周辺における副都市拠点の整備

徳重・名古屋芸大
駅周辺地区



- ・徳重・名古屋芸大駅周辺地区では、駅機能の向上、幹線道路等のアクセシビリティの向上及び鉄道の高架化を目指し、土地区画整理事業を推進します。
- ・誰もが快適に移動することができるようバリアフリー化などユニバーサルデザインに配慮した整備を進めるとともに、無電柱化など駅前としてふさわしい景観形成に努めます。

2) 良好な住環境の創出に向けた市街地の整備・改善

都市基盤改善地区



- ・鍛冶ヶ一色村内西周辺地区、石橋地区は都市基盤の整備を前提として第一種低層住居専用地域に指定してから既におよそ40年が経過し、市街化が進行しています。今後、人口の増加が見込めないなかで宅地供給の必要性も低くなることから、現在の居住環境を守り維持するため、都市基盤施設を地区施設として位置づけることを目的とした地区計画の指定を検討します。

住居系市街地形成
エリア



- ・西春駅から概ね1km圏内に位置し、主要地方道春日井稲沢線の沿道利用ニーズが高いエリアであることから、このまま放置した場合、都市基盤施設が未整備の状態です市街化が進むことが危惧されます。そのため、良好な都市環境を形成するため、都市基盤施設の整備と用途地域の指定を検討します。
- ・駅に近接するだけでなく、防災拠点と連携する医療機関や子育て施設が立地し、比較的市役所への距離も近いことから生活利便性が高い場所であるため、現存する農地を活かした高質な住宅地として、本市における先進的な市街地形成を図ります。
- ・民間による開発に対しては、雨水貯留・浸透施設の設置を指導します。

【住居系市街地の拡大の考え方】

目標年次まで一定の人口増加が見込まれるなかで、ゆとりある住宅地の形成に向けては、住居系市街地の拡大について検討することが必要です。その際には、周辺の市街化状況、近年の宅地需要等を勘案し、集約された市街地形成を目指して、駅周辺などの利便性の高いエリアから順に検討していきます。

3) 産業系市街地の整備

北名古屋沖村西部 地区



- ・北名古屋沖村西部地区では、土地区画整理事業による適切な公共施設の整備・改善を推進し、産業集積に向けた開発を促進するため、企業の誘致に積極的に努めます。

産業系市街地形成 エリア



- ・市域南部の鴨田川左岸周辺は、既存工業が集積しており、このエリアは本市のなかでも農地がまとまって残っているエリアです。農地の持つ防災機能（遊水機能）を担う地域としての役割を勘案した上で、将来的な企業ニーズを見据え、産業系の市街地形成を検討します。

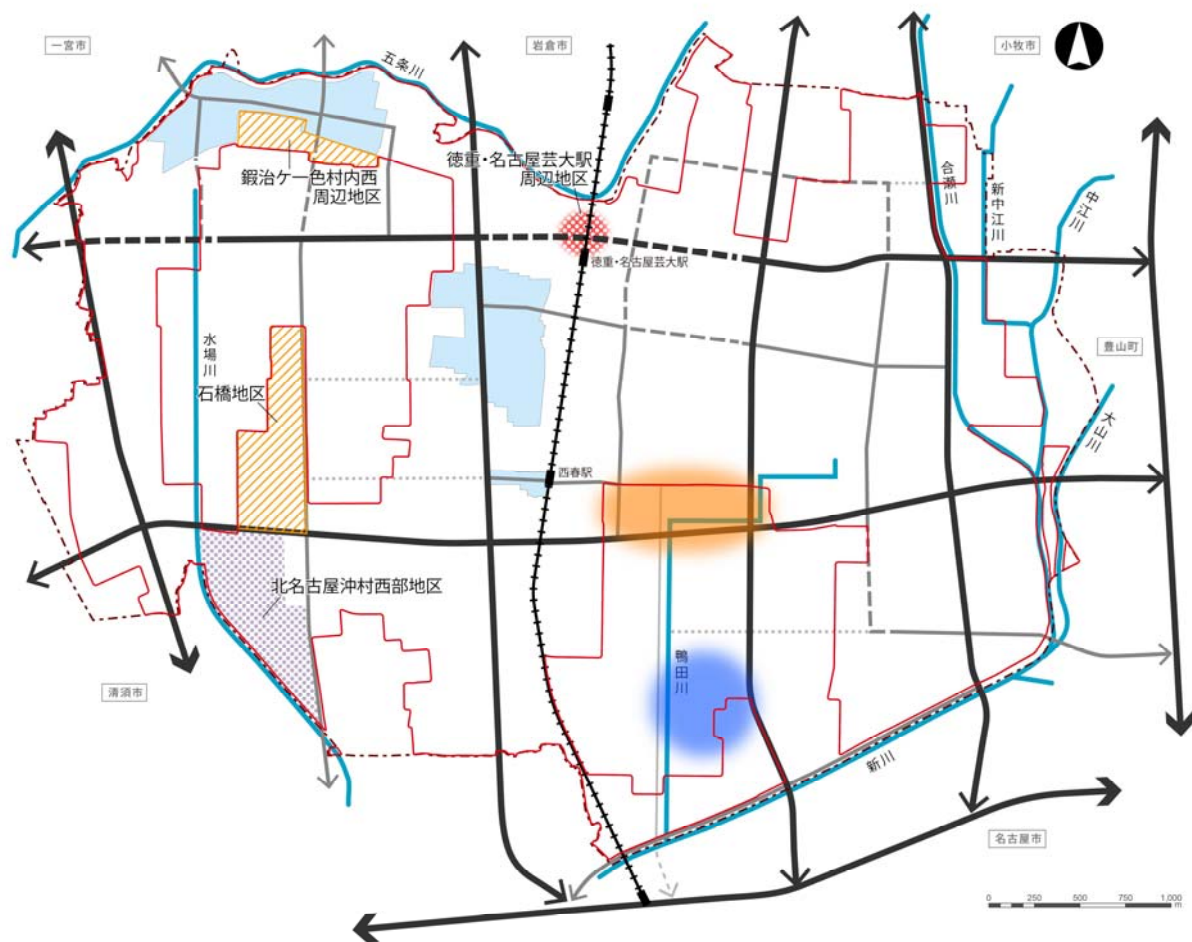
【産業系市街地の拡大の考え方】

本市の持続可能な発展には産業集積を進めていくことが求められます。

現在の工業用地は本市の周囲を取り巻く広域的な交通体系を背景に、国道 22 号沿道を中心として立地しています。そして、北名古屋沖村西部地区では産業用地確保に向けた整備を進めているところです。一方で、本市東部では、国道 41 号からの滲み出しとして工業施設が点在し、南部では、新川沿いに工業施設が集積しています。

北名古屋沖村西部地区に続く産業用地としては、周囲の土地の連続性や広域交通へのアクセス性を考慮して、そのエリアを検討していきます。

市街地整備の方針



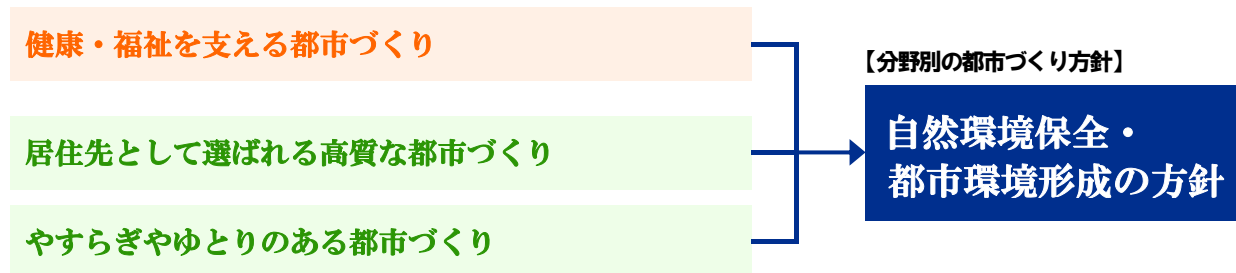
凡 例	
	土地区画整理事業 計画中
	土地区画整理事業 施行中
	土地区画整理事業 施行済
	住居系市街地形成エリア
	産業系市街地形成エリア
	都市基盤改善地区
	市街化区域
	行政界
	主要幹線道路・都市幹線道路
	地区幹線道路
	計画路線
	構想路線
	鉄道
	河川

4-4 自然環境保全・都市環境形成の方針

◆都市計画の目標との関わり

「自然環境保全・都市環境形成の方針」と都市計画の目標との関わりは以下のとおりです。

【都市計画の目標】



◆基本方針

山林がなく、地形的に低平地である本市では、公園のほか、河川・農地・寺社等の要素が都市における貴重な水や緑の空間であるとともに、景観形成の資源となっています。特に、都市部における農地は、食料生産機能のみならず、市民生活にやすらぎ・潤いをもたらす緑としての機能、遊水池としての防災機能、市民農園・レクリエーション活動の場としての交流機能等、多様な機能を有した資源として認識されつつあります。

そのため、市内の河川や農地は、自然環境資源として都市との共存を図ります。それとともに、公園・寺社が有する機能と合わせてやすらぎや潤いのある都市環境を形成する資源として活用することで、北名古屋らしい魅力的な都市空間の形成を図ります。〔居住先として選ばれる高質な都市づくり〕〔やすらぎやゆとりのある都市づくり〕

また、河川や農地等の自然環境や歴史・文化を継承する地域資源を活用し、歩いて楽しい良好な景観づくりを推進するとともに、自動車から公共交通への利用転換を目指すことで環境にやさしい都市づくりを推進します。〔健康・福祉を支える都市づくり〕

◆整備・誘導・保全方針

1) 自然環境（農地）と共存する都市づくりの推進

本市は名古屋市隣接の都市のなかでも、まとまった農地が残る貴重な都市のひとつです。その特長を活かし、自然環境と共存する農住共存都市を目指します。

また、市街化区域内の生産緑地・市街化調整区域に残る農地を活用し、市民との協働のなかで農地を活かした都市づくりを検討します。

2) 都市景観づくりの推進

本市は平坦であり、里山や森などがなく公園等も少ないことから、自然環境のうち「緑」の要素が少ない一方、新川や五条川をはじめとする「水」の要素が多くあります。この個性を活かすとともに、民有地等で不足している「緑」を増やすことで良好な景観を形成します。

また、市街地においては、市街地整備にあわせて積極的な景観形成を検討します。

その他、本市を特長である歴史・文化資源や名古屋芸術大学などと連携した景観を形成します。

なお、これらの街なみ・景観形成にあたっては、本市に住む人が歩きたくなるまちづくりを市民の皆さんとの協働によって進めます。

3) 公共交通の充実による環境負荷の軽減

「コンパクトシティ＋ネットワーク」の都市づくりを推進することは、自動車利用の減少にもつながります。公共交通の充実により、環境負荷の軽減を図ります。

4) 産業用地の開発における緑地の確保

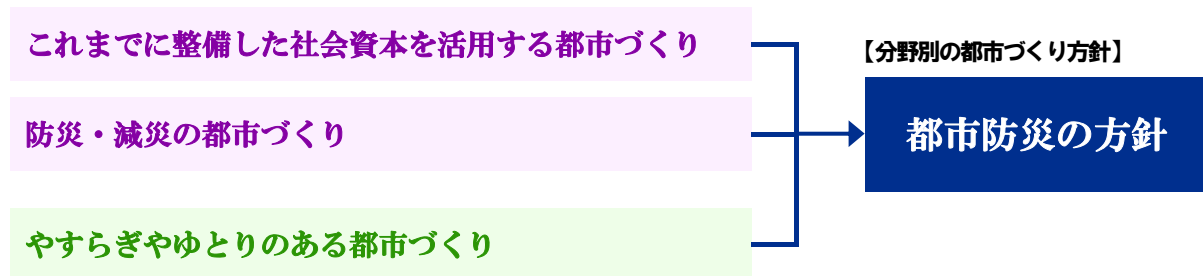
産業用地の開発によって周辺地域の環境が悪化することを防ぐため、周囲の公園や緑地、河川の配置を活かしながら、開発の規模に応じて必要な緑地を確保又は創出します。

4-5 都市防災の方針

◆都市計画の目標との関わり

「都市防災の方針」と都市計画の目標との関わりは以下のとおりです。

【都市計画の目標】



◆基本方針

本市は、地形的特性上、これまでも多くの水害に見舞われてきましたが、近年、全国的にゲリラ豪雨や大型台風等が多発しており、従来以上に水害対策の重要性が増しています。また、東日本大震災や2016年熊本地震等の想定を上回る地震被害を目の当たりにしたことで、南海トラフ地震の発生が危惧される本市においては、市民の「安全・安心」への関心は非常に高まっています。

市民の安全・安心な暮らしを確保するため、農地を活用した治水対策や災害時に防災活動の中心となる拠点整備を推進し、安全・安心が実感できる防災・減災の都市づくりを図ります。特に、浸水の被害を防止・軽減していくためには、河川改修を促進するとともに、本市に残された貴重な農地がもつ遊水機能を強化し、また、新たに開発等を行う際には浸水被害を軽減するための対策を施すことで水害対策を推進します。〔防災・減災の都市づくり〕〔やすらぎやゆとりのある都市づくり〕

これまでも地域の交流の拠点となっていた健康ドーム周辺では、既存の医療施設とも連携して防災拠点としての整備を推進します。また、防災上重要となる公共施設については、耐震化等を積極的に進めることで安全を確保します。〔これまでに整備した社会資本を活用する都市づくり〕

◆整備・誘導・保全方針

1) 農地を活用した治水対策

鴨田川流域は、ポンプ排水能力以上の大雨の際に湛水する可能性があります。さらに、新川の流下能力を上回る降雨量となり、水位が上昇し越水破堤のおそれがある場合は、鴨田川排水機場からのポンプ排水も停止することになります。そのため、鴨田川流域の農地エリアは市街地への浸水を防ぐとともに新川への負担を軽減させるため、大雨時に意図的に湛水させ、水田に雨を50mm程度余分に溜める水田貯留を検討します。

2) 浸水被害を軽減する都市づくり

開発等の際には、浸水対策を行うとともに、市街化の進展による雨水の流出増加を抑える雨水貯留・浸透施設の設置を推進します。

3) 健康ドームを拠点とした防災都市づくり

健康ドームは、「健康づくりの拠点」「ランドマーク」「自然環境との共生」「環境共生のエコドーム」「防災拠点」をコンセプトにユニバーサルデザインを徹底し、すべての人が使いやすい施設となっています。健康ドーム及びその周辺は、被災者等の救護や災害救援物資の配備等を行う災害救護拠点として、防災備蓄倉庫や防災健康ひろばの整備を図ります。また、災害時における救命医療や広域搬送機能などを有する済衆館病院とのアクセス性の向上を図ります。

4) 公共施設等の安全確保

学校・体育館・病院など、多数の人が利用し、一定以上の規模を持つ建築物は、防災上重要な建築物であり、愛知県と連携して耐震化を促進します。市が所有する建築物については、耐震診断未実施のものは耐震診断を計画的に実施するとともに、耐震性のないものについては、防災上重要な建築物から優先的に耐震改修等を進めます。

また、道路・河川・上下水道・電力・ガス・鉄道といった公共施設は、災害復旧の根幹となる施設であることから、耐震性の強化及び被害軽減のための施策を実施することで、被害を最小限にとどめるよう事前の予防措置を講じます。

特に、発災時に避難経路となる道路については、沿道の建築物やブロック塀などの工作物を含めて、耐震性の点検を実施し、安全性の確保に取り組みます。

